

「大館ふるさと会」 結成総会開催



11月6日、東京で「大館ふるさと会」結成総会が開催され、会の結成を喜ぶ多くの人たちでにぎわいました。出席者数は350人近く。

東京近郊、千葉、埼玉、神奈川はもちろんのこと、遠くは愛知県から出席した人もいたようです。出席した人たちにお話を伺うと、異口同音に聞かれるのが大館を案じる声です。中央のマスコミからは大館のニュースを得ることがほとんどできませんから、日ごろ「大館が現在どうなっているのか」ということがとても気がかりなのだそうです。また、大館に家族を残して首都圏で活躍されている人も多く、「ふるさととのコミュニケーションの場が欲しかった」との声も聞かれました。

今回の結成総会から、実に様々な人が大館を応援してくださっているという事実をあらためて認識させられました。そして、首都圏に住む人が大館のために何かをしたいと思っても、発言したり行動したりする場が今まではなかったのだということが、残念でもありました。しかし、「大館ふるさと会」が結成されたことによって、肩の力を抜いて情報交換ができる場が誕生したといえます。

今後、同会が人々の心のよりどころとして、また、首都圏での大館の情報発信源としての役割を担い、長く続いていくものになることを期待しています。

小 畑 元

大館能代空港

修ばつ式・起工式

10月21日、鷹巣町で大館能代空港の修ばつ式と起工式が行われました。これにより、県北の高速交通体系の核となる同空港の建設事業が、10年10月の開港を目指して本格化したことになります。

修ばつ式は鷹巣町大野台の空港建設現場で開催され、松尾運輸事務次官や佐々木知事、空港建設促進期成同盟会を構成する県北の各市町村長など約百五十人が参列。既に六月からスタートしている空港建設工事の安全を祈願しました。会場を鷹巣広域体育館に移して開かれた起工式には約三百人が出席。大館能代空港が、国の第六次空港整備五カ年計画予定事業への組み入れ決定後、異例の早さで建設着工となるまでの道のりを振り返りました。



クワ入れをする佐々木知事（修ばつ式）

の課題は、大館能代空港の開港を軸として解決されようとしています。今後は開港をにらんだ航空需要の創出や、臨空港型都市整備を進めなければなりません。

行政協力員大会

— 永年勤続者を表彰 —

大館市行政協力員大会が十月三十一日に開催され、永年勤続者の表彰や記念講演などが行われました。そこで、今回永年勤続表彰された行政協力員をご紹介します。

◆ 永年勤続表彰者

三十年勤続

・ 釜谷 捨巳さん（舟場）

二十年勤続

・ 齋藤 キヨさん（片山1区）

・ 藤島 勝彦さん（大滝1区）

・ 柴田 直治さん（軽井沢1区）

・ 新澤 秀雄さん（陣場2区）

十年勤続

・ 泉館 良美さん（相染町）

・ 石村 正さん（新富町）

・ 笠井 幹巳さん（寺町）

・ 伊藤 恵二さん（新地）

・ 島崎 西松さん（有浦3丁目）

・ 長崎敏昭さん（御成町市営住宅）

・ 三ツ倉ユキさん（清水南町）

・ 奥村 勝美さん（上通）

・ 篠村良太郎さん（松木1区）

・ 岩谷 正一さん（上代野）

・ 石田小次郎さん（下代野3区）

・ 石垣 重美さん（小茂内）

・ 畠山 廣治さん（池内）

・ 佐藤 文雄さん（天神緑町）

・ 武田 方昭さん（杉沢）

・ 奈良 一雄さん（道目木）

6年度 大館市行政協力員大会

